壁際の再構築

多様な人が安心して素顔を見せる大らかな広場

坂田直哉



0) やりたい広場:様々な社会的階級・人種・年齢の人がより多様な振る舞いで混ざる体験 歌舞伎町ゴジラロード 西洋の広場





西洋的な広場と比較して

良い:





壁に囲まれている

その中に点在し拠り所になる小さな居場所

→しかし、もっと写真には歌舞伎町にいるはずのもっと色々な人が見えないし、壁際に居場所が無いように見えるし、 西洋の広場に存在するような多様なアクティビティーが存在しない。広場はもっと豊かな体験をもつはず。

1) 敷地:新宿歌舞伎町 多様な人が集まる街





として発展

闇市が始まり、鈴木喜兵衛・石 川栄耀らによって復興案が建て られそこから再度繁華街として 発展。朝鮮半島・台湾・中国か らの出身者、戦前からのヤクザ、を集めた



な娯楽、例えば映画館やゲームセン ディスコが閉店性風俗店が大量開 ター、スケートリンクなどあったり、 店、訪れる人を選ぶ比較的閉鎖的な たがそれでもそこは歌舞伎町の中心か シネシティ広場にはヤングスポットと 場所になった 呼ばれた噴水もあり慕われ多くの若者



で新宿駅からゴジラロードが整備され ら近く、怖さを感じ入りにくい場所で



娯楽街



ゲームセンター、ボーリング 場、カラオケ、クラブ、映画館、 等がある。学生やスーツ姿の 若い人が多くいる。



居酒屋や飲食店が立ち並ぶ。 娯楽街より年配の人が見ら



キャバクラ等風俗 店が立ち並ぶ。

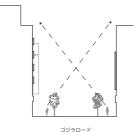


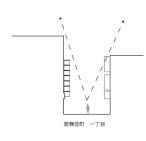
地元の人が多い。新大久保 の方から伸びる中国人韓国 キャッチやホスト、人街がある。

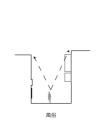


外からの訪問客が多い。

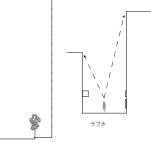
ラブホテル街







比較的年配の人で ごった返す。



オフィス街

2) 案に向けての分析と全体的な考え方

<それらの場所の結節点となっている『街外れ』エリアを広場化する>

現在の歌舞伎町の広場ゴジラロード: 非日常的な場所、緊張感高揚感を感じる 敷地: 今は街の外れという感じがする場所



ゴジラロードの終点にはシネシティ広場という死んでいる広場がある。現在ここで人の流れが止 まっている。ビルが開発されてもこの広場を囲むように作るとここで繁華街からの流れは止まる。



日常的な場所 歓楽街ではなく住む / 働く場所 としての歌舞伎町 日常的な雰囲気が漂う

歌舞伎町の外と中の関係を大幅に変えるポテンシャルをもつ こちらならより広い面積で歌舞伎町の外と接するのでより外に

近く安心してアクセスできる場所になるのではないか



緑枠に囲まれた3つの広場を活かすように赤枠の敷地のビル (MILANO 座の再開発計画が進ん でいる)の建て替えを行う/広場に面する周囲のビルのエッジ部分をリノベーションしてい

<見えない暮らしを顕在化させる>



ビジネスホテル



オフィス 飲食店 風俗店

都心であるために実は歌舞伎町の北側のビルの上層階には実はオフィスが多い



オフィス 病院



西武新宿駅の通勤者



オフィス街へ向かう通勤者 昼の歌舞伎町は通勤するサラリーマンが多い

歓楽街としての歌舞伎町には無い種類の用途の建築、人間が存在する →歓楽街ではあまり見ない観光客や出張中通勤中のサラリーマン、ここ

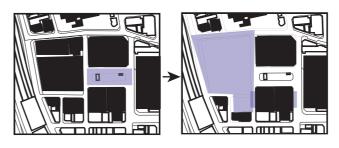
で働くオフィスワーカー、働く中国人韓国人等の生活が隠れている



新大久保から伸びてきた韓国人中国人街

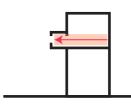
3) 提案 広場に並ぶ周囲のビルの表面に新たな壁を設け、より多様な居場所とアクティビティーを生む

広場で周辺と接続する



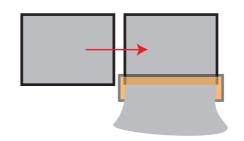
シネシティ広場が周辺に開かれる

ビルの内と外の間のような場所を作る



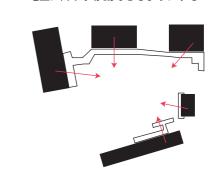
外にいるけど安心するような、壁で囲まれながらも 都市に解放されている場所を作る その建物の人たちは広場から見る / 見られる 広場の一部で居場所を獲得する

新たな壁を作り、箱を開く

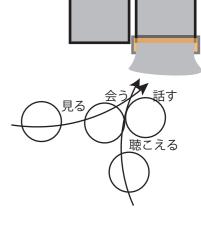


箱で閉ざされ外部空間には現れていなかった 中の人たちの暮らしが外に出てくる

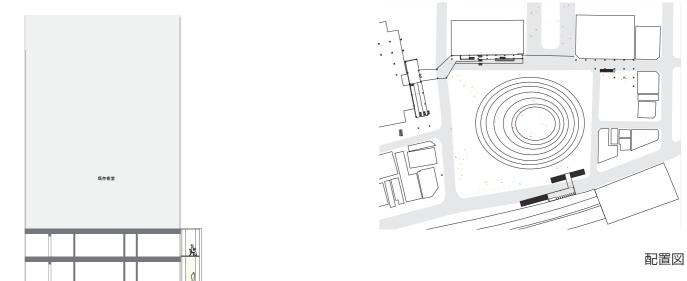
二階レベルまで公に開放し横に繋ぎ 地上に降りず移動できるようにする

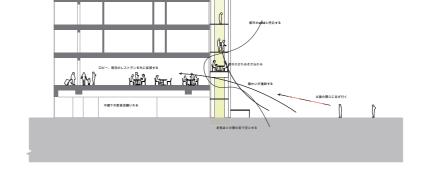


それら壁面の居場所に対して多様な距離感がある 小さい場所を作っていく

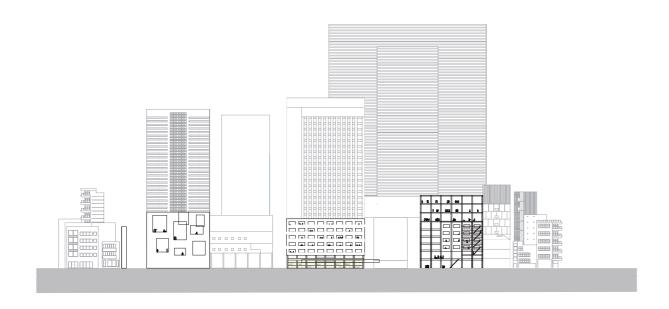


4) 形





断面図 S=1:500



立面図 S=1:500



歌舞伎町はキャッチだけが多いような場所や、外から訪れる若い人だけが多いような場所が現在あるように見える時がある。場所によって棲み分けがなされているような気がする。しかしそのような限られた人たちだけでなく、もっと歌舞伎町にいるがゴジラロードにはあまり姿を見せない様々な人、例えば地元の中国人韓国人、周辺にオフィスを構えるオフィスワーカー、病院に通う患者や医師看護師、風俗で働くホストホステス風俗嬢、そしてたまに出会う頭がおかしい狂人、ホームレス、そんな人たちも日常的に訪れ安心感や解放感をそこにいる人たちで分かち合うような場所も必要だと思う。そんな場所で時間を過ごす時間、そんな場所が都市には必要だと思う。空間は作れなかったが、これからもそれについて考えていくし、そんな性質をもつ場所を作っていこうと思う。

横国の4年間の無茶を許してくれた家族、辛抱強くご教授してくださった先生方、ヘルプして最後まで支えてくれた後輩や友人たち、自分に関わってくれた同級生、全員に助けられてなんとか出せました。ありがとうございました。

Comments from Classmates

多様な人々が集まる都市で、彼らが作り出す外部空間に注目している所が自分の興味と似ていると思って見ていました。日本で広場を考えるのはとて も難しいけれど、とても大切なことだと卒制が終わってから更に思うようになりました。また話しましょう。

前本哲志

毎回の講評会ごとに敷地が変わってフラフラしているなぁと感じていたけれど、最終的には身体と空間のデザインから続く 4 年間続いていた興味である「歌舞伎町」を敷地に据えて、設計したところが本当に感慨深いです。いろんな人を巻き込んで作品を作り上げるという人望の厚さは、直哉にしかないなといつも思います!

藤澤太朗

直哉が敷地を転々とした末に原体験の空間としていた歌舞伎町に戻ってきたことも含めて、自分の軸をずっと持ち続けて都市を見てきたのが感じられてよかったと思います。最後の追い込みでいろんな所から人を巻き込んでお祭り状態だったのも直哉らしいと思う。自由が丘の部屋めっちゃ良かったんでまた転がり込みます(笑)

勅使河原大誠

敷地選びにひたすら悩んでいて、結局は自分の原風景でもある歌舞伎町できたのは良かったと思う。いつも考えることに対して共感するけど、なかなか形にならず悩んでいる印象だった。でもどこプロジェクトもその先が知りたくなるような想像を掻き立てるものになっているのはいいなと思った。 卒業設計あと 1 ヶ月あったらどうなったのかな。

西尾昂紀